

平成23年度 学校経営の改革方針

学校名 三重県立名張西高等学校

I 目指す学校像

(1) 『共に学び合い、共に成長できる学校』

教育活動全体を通して、生徒と教員、生徒と生徒、教員と教員とが、相互の信頼感の下に、学び合い、高め合えるような学校を目指します。

(2) 『信頼感に満ちた進学校』

知・徳・体のバランスがとれた、質の高い学びを求める生徒を育み、生徒の進路希望を実現する学校を目指します。

(3) 『前向きな姿勢を持ち続ける学校』

生徒、保護者、教職員、地域の方々すべてが、集えて良かったと感じることのできる、明るく元気に、常に前向きな姿勢を忘れない学校を目指します。

II 現状と課題

創立26年目を迎える本校は、普通科・英語科・情報科の3つの学科があり、多様な教育機能を有する地域の進学校として、進学を目指す多くの生徒が学んでいます。創立以来、「個性伸張」「進取創造」「心身錬磨」を掲げ、その理念の具現化に努めています。生徒のほとんどが、明るく素直で学校の基本的なルールを大切にしており、部活動や学校行事等にも積極的に取り組み、まじめで前向きな学校生活を送っています。

しかしながら、近年は中学卒業生徒数の減少に加え、平成23年度からは近くに近畿大学工業高等専門学校が移転してきたこともあり、生徒の確保に苦慮している現実があります。また、生徒の進学実績においては、四年制大学への進学者が6～7割に上るものの、国公立大学は10名前後で推移しており、「関関同立」も10～20名程度です。「産近甲龍」においては、ここ数年進学実績を伸ばしてきており、平成22年度入試では82名、平成23年度入試においても63名の生徒が合格をしました。

この現状に満足することなく、「さらなる高みを目指した進学指導」を実践することにより、地元の中学生が地元の高校で進路実現が図れるようにしていきます。当面、大学合格者数の目標値を現状の2倍程度に設定し、進路指導体制や教育課程を見直し、授業改善を図っていきます。

III 中長期的な重点目標

「さらなる高みを目指した進学指導」を実現するために以下の教育活動の中心に据えて行っていきます。

(1) 授業改善のための取り組み

教職員間に芽生えた機運を大切にしながら、教員を教育研究セミナーに派遣すると共に、民間の授業力改善プログラムを研究し、授業力の向上に努めます。また、授業改善による成果の検証方法も研究していきます。

(2) 進路指導体制の構築

国公立大学や難関私立大学への進路実現を図るために、基礎学力の向上に取り組むと共に、上位層の学力の充実を図ります。また、先進校へのベンチマークや、大学進学を実現するための新学習指導要領のカリキュラムを編成します。

(3) 家庭学習時間の増大の取り組み

英語科の Can Do List と同様なものを各教科でも工夫し、生徒に示すことによって、目的意識を持たせ、自ら進んで学習に取り組む習慣が身につくようにします。予習や復習をやらざるを得ない授業を展開し、生徒の家庭学習の時間の増大を図ります。

(4) 広報活動の充実

学校紹介リーフレット、広報誌「JOIN US」等の充実を図り、地元中学生に配布します。Webサイトの更新を月2回以上はすると共に、地元のケーブルテレビやFM放送局、情報誌の協力を得て、学校の情報発信に努めます。

(5) 不易な取り組み

(ア)学ぶ生徒、働く職員、支える地域の方々すべての人々との対話を大切にし、本校の伝統である「生徒一人ひとりを大切にする」視点のもとに、一層の信頼関係の構築を目指します。

(イ)授業（教科指導）やHR活動及び生徒会活動や部活動等の場において、生徒の自主的・自律的な活動を支援します。

(ウ)部活動は、「望ましい人間関係」や「生きる力」を育成する上で、また、学校を活性化する上でも大切な活動と位置づけ、その取り組みを重視します。

(エ)生活習慣の確立は、学力向上にとって大切であり、挨拶・服装・言葉遣い・時間厳守・掃除・遅刻などの生活指導を徹底します。

(オ)人権・同和教育の推進を図り、差別を許さない心と差別の解消に主体的にかかわっていく態度を養います。

(カ)英語教育の一層の充実を図り、姉妹校交流等の活動を推進するなど、国際感覚あふれる学風を一層広げます。

(キ)情報教育の充実及び校内情報インフラの一層の活用を図り、生徒も教員もICTリテラシーの向上を目指します。

IV 本年度の行動計画

(1) 授業改善のための取り組み

(全学年) 授業規律の確立を目指します。

・始業開始チャイムで授業準備（着席）が出来ている状態を目指します。（100%）

(教務部) ・各教科・学習指導委員会と連携しながら、授業内容の充実と授業力の向上に努め、「わかる授業の構築」に向けたサポート活動を行います。

・授業公開や、授業アンケート等をとおして授業のスキルアップを目指します。

・授業規律を確立し、生徒が授業に集中できる環境を整えます。

・図書館を計画的に利用し、その機能の活用を図ります。

(人権・同和教育係) 教職員は人権LHRを充実させます。

教職員は校外研修に積極的に参加します。

(英語科) ・各学期3回以上、他教員の授業見学を行い、意見交換を行います。

・年間1回以上ベンチマークまたは他校の授業公開・講演会等に参加します。

・生徒の資格試験に対する意識を高め、授業内外でその対策を行います。

①英語科生徒は、原則年間1回以上英語検定を受検するよう指導します。

②英語科生徒は、原則年間1回以上GTECを受検するよう指導します。

③英語科の授業の中で、英検対策、GTEC対策を行います。

④普通科・情報科生徒にも、英検・GTECを受検するよう指導します。

(情報科) ・チームティーチングを率先して行い、教師間の連携・協力をはかり、意見交換をして常に工夫・改善に努めます。

(教科)

[国語] ・科目担当者間での意志の疎通をはかり、教材への理解を深めます。

- ・各種研修会に積極的に参加し、教員としての資質向上をはかります。
- [地歴公民] ・互いの授業見学や、授業方法についての意見交換を活発にすることで、教科指導のスキルアップをはかります。
- [数学] ・授業向上に関するセミナーなどの各種セミナーに3人以上参加します。
 - ・授業公開を年2回以上は行います。
- [理科] ・物理では、上位層の生徒の能力を引き延ばすことに力を入れ、センター試験80点以上を3人(昨年1人)、70点以上10人(昨年3人)を目標にします。習熟度別クラス編成を実施して生徒の幅広い能力により合う授業内容を試みます。
- ・化学においては、進路先を基本とした習熟度別クラス編成し各層に対して充実した授業内容が展開できるようクラス編成を行います。
- [保健体育] ・生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てます。
 - ・健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図ります。
 - ・準備・後片付けなど集団における個人の役割を認め、行動する姿勢を育てます。
- [芸術] ・(書)よりわかりやすい授業となるように、書画カメラ等を利用して、視覚的に理解し易くします。副教材として「応用ペン字」を活用し、書道検定にとりくみ易くします。
 - ・(美)基礎技術向上のための助言をします。

(2) 進路指導体制の構築

- (1 学年) ・総合的学習の時間、LHRの時間を中心に文理選択、職業選択などの進路決定に向けた動機付けを積極的に行います。
 - ・個別面談などを通して、模擬試験の結果を生徒一人ひとりに丁寧にフィードバックしていきます。
 - ・進路指導部と連携を密にし、1学年からできるより良い進路指導体制の構築を目指します。
- (2 学年) ・各種成績等を踏まえたきめ細やかな進路指導を行います。
 - ①模試結果活用のための研修会の実施(1回)
 - ②定期的な進路指導部との情報交換(2回)
 - ③定期考査後の個人面談(5回)
- (3 学年) ・前年度に引き続き、生徒の実態把握及び適切な進路指導のための面談を各学期2回以上行います。
 - ・生徒の進路希望実現のため、模擬テストの結果分析を各学期1回以上行います。
 - ・各生徒における学力・行動の変化を学年団で共有し進路指導の向上を目指すために、月一回のペースで情報交換を行います。
 - ・上記の行動計画を実施することで、生徒の第一希望の進路実現率80%を目指します。
- (教務部) ・担任・進路指導部と連携しながら、生徒が科目選択を決定する活動をサポートします。
 - ・より良い科目選択のあり方を研究します。
 - ・2学期期末考査後の3年生の学習指導について研究します。
 - ・図書館に進路選択、小論文対策の資料を用意し、自主的な学習のサポートをします。
- (進路指導部) ・国公立大学20名以上、「関関同立」50名以上、「産近甲龍」150名以上の合格を目指します。
 - ・進路情報誌「コンパス」を月1回発行し、進路情報や進路指導の方針を生徒及び保護者に理解を促します。
 - ・学年と進路の連絡を密にするとともに、模試結果の分析をもとに、学期に1回以上の進路担任連絡会を実施します。
- (人権・同和教育係) 学年・担任と情報交換を密にし、外国籍生徒等の進路実現をサポートします。

(英語科) ・各科目で、小テストを計画的、継続的に実施し、基礎学力を養います。

- ・全学年において、センター試験を意識した授業を行います。
- ・バラエティー豊かな内容のセミナーを開講し、進学を見据えた学習を支援します。

(情報科) ・生徒と教員が一体となって、HR 全員受検の検定に対して、全員合格に向けて取り組みます。

※HR 全員受検の検定とは、

1 年生は情報技術検定 3 級とパソコン利用技術検定 3 級

2 年生はパソコン利用技術検定 2 級と情報技術検定 2 級

- ・センター試験科目「情報関係基礎」対策を充実させ、受験者平均点 70 点以上を目指します。

①サマーセミナー、ウィンターセミナーなどの補習を行います。

②自主学習ができるように過去問等のプリントやファイルを充実させます。

(教科)

[国語] ・多様なデイリーセミナーを開講します。(様々な進路希望者が参加できるよう配慮したセミナー開講を心がける。)

- ・漢字検定を利用し、漢字能力の向上・定着をはかります。(漢字検定の年間合格者目標数を 2 級 20 名・準 2 級 50 人とする。)

[地歴公民] ・センター対策補習などを実施し、得点率の向上を目指します。

- ・生徒の苦手分野や受験校の傾向を把握し、分野別の補習などを開講して、補習受講生の掘り起こしと弱点強化をすすめます。
- ・1・2 年生についても早いうちから、センター試験や入試問題を意識した授業内容を取り入れていきます。

[数学] ・習熟度別授業を実施します。

- ・模試対策講義を実施します。
- ・デイリーセミナーを実施します。
- ・校外模試数学の偏差値 50 以上の生徒が 50 人以上を目指します。

[理科] ・3 年物理デイリーセミナーで、基礎クラスと応用クラスの 2 クラスを開設します。

- ・3 年生物夏季セミナーを、他教科のセミナーが行われない日程で行い、受講者の 8 割の生徒がセンター試験で 70%以上の得点を取れるように指導します。
- ・3 年化学デイリーセミナー及び夏季セミナーを他の教科と重複しない時期に実施し、センター試験では 70%以上の得点を取れる生徒を受講者中 8 割確保します。

[保健体育] ・体育系大学進学希望者への適切な指導助言をします。

[芸術] ・(書)書道Ⅱの選択生徒は少数であるが、なるべく開講して、進路選択の可能性をひろげます。

- ・(美)美術方面に進学する生徒には、相談の機会を作ったり、放課後を利用して、細かな指導を行います。

(3) 家庭学習時間の増大の取り組み

(1 学年) ・授業時間外の学習時間が 90 分以上となる生徒の割合が 50%以上を目指します。

- ・家庭学習の動機付けとなり得る各種セミナーへの積極的な参加を呼び掛けます。
- ・個人面談などを通して主体的に学習に取り組む動機付けを進めていきます。

(2 学年) ・授業時間外の学習時間が 120 分以上となる生徒の割合が 50%以上を目指します。

- ①面談等での動機付け
- ②セミナーなど授業以外の学習活動への勧誘

(3 学年) ・入試傾向の実態把握や応用力をつける目的で過去問あたらせるため、進路指導室の赤本等の貸し出し前年度比 200%を目指します。

(教務部) ・生徒の学習意欲を高めるための環境整備を行います。

- ・生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動の充実を目指します。
読書感想文の応募を推進します。
- (進路指導部) ・家庭学習の重要性を生徒に理解させるとともに、家庭での学習時間調査を実施します。
- ・セミナーの出席状況をまとめ、担任と教科担当の連携のもと、継続的な学習の指導にあたります。
- (英語科) ・小テストの日程と範囲を学期初めに示し、計画的に自主学習を進めるように指導します。
- ・定期考査に加え、課題テスト、実力テストを実施し、継続的に学習するように指導します。
- ・生徒が自主的に学習できるよう、英検問題集の貸し出しを充実させます。
- (教科)
- [地歴公民] ①小テストや小課題の実施により、学習習慣の定着、家庭学習時間の増加をはかります。
- [数学] ・週末課題の実施。週末課題提出率80%を目指します。
・授業における日々の課題の提示。アンケートでやれた、ほぼやれたが60%以上を目指します。
- [理科] ・3年生物Iにおいて、従来から問題演習の予習を指示していたが、今年度は授業前に100%提出させるなどして、家庭での予習を促すよう試みます。
・不定期の小テストを実施することで、常に復習する習慣をつけさせ各学期評定1の付く生徒を皆無とします。

(4) 広報活動の充実

- (総務部) ・中学生対象のリーフレットと広報誌「join us」の内容・デザインを充実させ、4回発行します。また「join us」を直接届けることで中学校との連携を深め、情報交換を行います。
- ・保護者対象のPTA広報誌「彩光」を2回発行します。
- ・ウェブサイトの更新を頻繁に行います。
- (教務部) ・図書館をPTAに開放し、生徒を通して本の貸借、学校来校時の閲覧可能を周知します。
- (進路指導部) ・進路決定先や進路実現のプロセスをHPを通して、中学生やその保護者に情報提供します。
- (英語科) ・英語科の学習内容・進路先がわかり易い広報（リーフレット、JOIN US、ホームページ）にします。
・本校ホームページ内の英語科の内容を2ヶ月に1回以上更新し、魅力的なものにします。
- (情報科) ・教員が、広報活動を充実していきます。
- ①西高Web Siteの更新を頻繁にします（月2回以上）。
- ②課題研究や実習などの成果を、文化祭やWebSite等で公開します。
- ③教員が、地域との関わりのある取り組みを見直し、充実させます。
- (教科)
- [芸術] ・(書) 生徒作品を、校外で展示する機会をつくれます。

(5) 不易な取り組み

- (1学年) ・家庭との連携を密にし、三者一体の強固な信頼関係を築いていきます。
- ・教室や廊下など学習環境の美化に努めます。
- ・挨拶の励行を積極的にすすめ、人間関係の構築を目指します。
- ・基本的生活習慣の確立に向けての助言を積極的に行います。

- (2 学年) ・人権問題と自分やなかまとのかかわりについて話し合います。
- ①すべての学級活動 (LHR、SHR など) において、人権の視点をもって取り組みます。
 - ②修学旅行をきっかけとした人権平和学習 (2 回)
 - ・進路先に情報の活用能力の向上を目指します。
 - ③インターネット等、情報メディアを活用する進路調べ学習を行います (2 回)
- (3 学年) ・幅広い知識を蓄積し小論文や面接に役立つことを目指し、生徒一人あたり 1 ヶ月に 1 冊以上の読書を奨励します。
- ・面接等により教員が生徒の声を親身に聞くことで、学校満足度 (充実した学校生活・教員側の進路実現への努力等) 90%以上とします。
- (総務部) ・積極的に国際交流を行い互いに理解しあう態度を養います。
- ・姉妹校との安定した交流を目指します。
- (教務部) ・図書委員の活動を活発にし、生徒の図書館利用を推進します。
- LHR 時の利用を促進します。
- (保健部) ・スクールカウンセラーを活用して、多様な悩みを持った生徒や保護者に対する支援を行います。
- ・特別支援教育において、担任・学年主任・教科担当者・管理職・保護者と情報交換を行い、発達障がい支援員などの外部機関の協力も得ながら、本人の特性に適した支援を行います。
 - ・保健室来室時のマナーと、授業担当者への生徒本人からの連絡を徹底させることで、安易な保健室利用をさせず、授業に出席するように指導します。
- (人権・同和教育係) ・教職員は日々の教育活動そのものが人権教育であるという意識を持ちます。
- ・教職員は差別を許さない態度で生徒に接します。
- (英語科) ・英語科行事を充実させます。
- ①English Seminar、Speech Contest 等に向けての準備を授業内外で行い、さらに充実したものにします。
 - ②英語科行事において、生徒と教員が協力して準備、進行を行います。
 - ③英語科生徒は全員、英語関係のコンテストに年間 1 回以上参加するよう指導し、準備を支援します。
 - ④英語科新聞を年間 3 回以上発行し、英語科生徒同士の情報交換を行います。
 - ⑤学年を超えた英語科行事を行い、英語科生徒同士の縦のつながりを作ります。
- ・小学校、中学校とのつながりを密にします。
- ①英語科卒業生の進路先、英語科在校生の現在の様子等を中学校へ報告します。
 - ②小学校、中学校への出前授業を行います。
- (情報科) ・国家試験 (基本情報技術者試験、IT パスポート試験) に挑戦させ、基本情報技術者試験 2 名以上、IT パスポート試験 10 名以上の合格を目指し取り組みます。
- ①国家試験対策の補習「情報スペシャル」を更に充実していきます。
 - ②自主学習ができるように過去問等のプリントやファイルを充実させます。
- ・教職員向け研修を開きます。(くものすパソコン更新後、2 回実施 (希望者のみ))